

省工ネ、安価 水素製造に道

岐阜薬科大など開発

新技術「5年後に実用化」

岐阜薬科大（岐阜市）の佐治木弘尚教授（環境化学）は「省エネルギーで安価に水素を製造でき、脱炭素社会に向け、燃料電池や水素ステーションへの応用が可能になる。5年後には実用化を目指す」と発表し

指したい」と話している。

開発したのは、同大薬品化学研究室、サイダ・FDS（静岡県焼津市）、エヌ・イー・ケムキャット（東京都港区）、国立研究開発法人産業技術総合研究所のグループ。佐治木教授によると、水素を取り出す方法は、高温・高圧

下で製造する方法が開発・実用化されている。今回の技術では、1気圧下で10ワットという極めて小さいエネルギーのマイクロ波と、触媒を組み合わせることで水素ガスを発生させることに成功。実験室内

での12時間継続照射では、触媒の劣化はなく、水素ガスは連続して発生し続けたという。

製法の特許は2018年6月に申請され、実験結果は今年1月16日に米学会誌に先行オンライン公開された。

【高橋龍介】